



## 修学旅行 第2学年 6月8日(水)～6月10日(金)



第 100 号

編 集 発 行

愛知県立大府東高等学校 P T A

平成28年 7月13日 発行



P T A 会 長  
和 藤 健

## P T A の果たす役割

皆様には、日ごろより P T A 活動にご

理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。五月十六日の P T A 総会を経て平成二十八年度 P T A 会長を務めさせていただくことになりました。子供たちはもちろんのこと私たち保護者にとりましても魅力あふれる学習環境、生活環境を創るために微力ではございますが、精一杯務めてまいりたいと思います。一年間どうぞよろしくお願いいたします。

さて、P T A 会報「冬青」が、記念すべき第百号を発行することになりました。これもひとえに P T A 会報の発行にご尽力いただいた諸先輩をはじめ、ご支援いただいた皆様方のおかげと心から感謝申し上げます。今後、二百号、三百号と大府東高等学校 P T A の歴史を刻み続けることを願ってやみません。

また、昨年、豪州エルウッドカレッジとの姉妹校提携三十周年を迎えました。今では、珍しい国際交流ですが、当時、県立普通科高校が、海外の学校と姉妹校提携を結んで交換留学を行うことなど、誰も想像しなかったでしょう。この

事業が、エルウッド校から愛知県教育委員会に宛てた二通の手紙によって始まり、今日に至るまで、両校の歴代の校長先生や教職員、保護者の皆様、生徒たちの並々ならぬ努力なしでは、続けることはできなかったと思います。まさに、本校の校訓である「努力」を惜しむな」そのものと思います。P T A では、今後も両校が友好を深め、「国際的視野を持つ人間」を育成できる環境づくりを支援してまいります。

先日、P T A の研修会において、「高校生の保護者は、自立支援者である。」と聞きました。教育には、学校教育・社会教育・家庭教育があり、中でも家庭教育は、親が子に日常生活という体験を通して、社会を生きることを教える重要な役割を担います。高校生から社会人へのステップアップ、自立を支援するのは、やはり保護者であると思います。

さらに、近年高校生を取り巻く社会環境は、急速に変化しています。例えば、「十八歳選挙権」です。これは、国家・社会の形成者として現在から未来を担っていくという公共の精神を育み、行動につなげることが目的です。P T A は、こうした社会の変化に敏感に対応していくことが重要だと思えます。

最後に、P T A 役員一同、この大府東高校に「通ってよかった。通わせてよかった。」と言っていただけに努めてまいりますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたしまして挨拶とさせていただきます。

# ごあいさつ



校長 高井俊直

保護者の皆様におかれましては、本校の教育活動に対しまして、御理解と御協力をいただき、厚く御礼申し上げます。平成二十八年度は、二四〇名の新入生を迎えてスタートをし、早、三か月余りが経ちました。この間の出来事として二つ、お話を致します。

まず、部活動についてです。総体知多地区予選では、バスケットボール部女子が準優勝、陸上競技部男子は、学校対抗総合三位となり、男女合わせて十四名もの生徒が県大会へ、また、柔道部、弓道部、バドミントン部、ソフトテニス部、卓球部が県大会出場を決めました。各部門も、県大会では善戦し、中でも、陸上競技男子一〇〇mに出場した二年生の酒井颯大君は、十秒七八の好記録を出し、六位入賞、岐阜で開催される東海大会と名古屋での日本ユース全国大会の出場権を獲得しました。いくつかの大会を見ましたが、選手として活躍する生徒の姿はもろろんのこと、観客席から心を込めて大きな声で激励や声援を送っている生徒や卒業生、保護者の方の姿が大変印象的でした。応援に訪れた多くの卒業生の姿に部活を通して築きあげられた絆を感じるとともに、活動を支えていただきました保護者の方々に感謝を申し上げます。

次に、エルウッドカレッジとの交流についてです。五月六日に姉妹校提携三十年周年を記念して、ロンダ校長先生はじめ、二十三名の訪日団をお迎えし、式典を開催いたしました。各種プログラム、

ホームステイを通して、文化や伝統、生活習慣の異なる同世代の若者が交流を深める中で、グローバルな視野を養い、異文化を理解し尊重する機会を得ることができました。昨年夏の訪豪で親しくなった生徒が多数来日し、交流をさらに深めることもできました。こういって、生徒同士のつながりのある相互訪問が繰り返されることで、三十年もの月日を重ねることができたと考えています。

ここで、河合隼雄氏の著書「こころの処方箋」の「理解ある親をもつ子はたまたらない」という一節を紹介します。ある非行を繰り返した子をカウンセリングしたときの話です。少し抜き出してみます。「その子は、真面目でこれまで何の問題も起こしたことがない生徒でした。何回か会って話をしているうちに打ち解けて、だんだんと自己主張をするようになって、「理解ある親をもつ子はたまたま」と述べたのです。子どもは成長していくとき、時にその成長のカーブがあまりに急で自分では抑えきれない不可解な力がわき上がるのを感じることがあります。それを何でもよいからぶつけてみて、ぶつかった衝撃の中で、自分の存在を確かめようとしています。子どもがぶつかるうとする第一の壁は親です。しかし、「理解ある親」はその衝突を回避してしまいます。角力取りは、ぶつかり稽古で強くなります。せっかくなぶつかるうとしているのに壁となる先輩力士が逃げ回っているのは、後輩の成長の機会を奪ってしまうのです。」先述しました部活動等、様々な教育活動を通して、子どもたちは三年間で大きく成長していきます。その中で、本校の教員は、しっかりと壁とならねばならない場面では、「真に理解ある教員」として、人にもぶつかりたいという生徒の気持ちをしつかりと受けとめてまいります。保護者の皆様には、本校の教育方針に対する更なる御理解をいただき、今後とも一層の御支援、御協力をお願い申し上げます。

## PTA総会

去る五月十六日(月)、本校体育館においてPTA総会を開催いたしました。当日の出席者は一五三名(委任状五四五)でした。

総会は、水野会長の挨拶に始まり、平成二十七年事業報告、会計決算、監査報告が行われました。

続いて、平成二十八年度役員改選が行われ承認され、和藤新会長の挨拶がありました。そして、新役員の方から平成二十八年度事業計画、会計予算案が提示され、承認されました。

最後に、PTA活動にご尽力いただきました水野会長をはじめとする十二名の役員の方々に感謝状を贈呈し、終了しました。

総会終了後は、学年ごとに会場を設定し、学年懇談会を行いました。第一学年は「高校生活の適応について」学年主任および各分掌の担当から話をしました。

第二学年は「二年生の生活・学習と修学旅行について」学年主任および各分掌の担当から話をしました。第三学年は「進路について」学年主任および各分掌の担当、進路指導主事から話をしました。懇談会へも多くの保護者の方の参加をいただきました。

なお、熊本地震災害義援金として、52,824円を、日本赤十字社に寄付しましたことをご報告します。

## 平成二十八年度 PTA事業計画

- 1 PTA総会 五月十六日(月)
- 2 PTA役員会・支部委員会・委員会等
  - ① PTA役員会
    - 第一回 六月十四日(火)
    - 第二回 九月三十日(金)
    - 第三回 一月二十七日(金)
    - 第四回 三月二十九日(水)
  - ② PTA役員・支部委員合同会議
    - 第一回 六月十四日(火)
    - 第二回 三月二十九日(水)
  - ③ PTA委員会
    - 第一回 六月十四日(火)
- 実践活動
  - 進路指導委員会
    - 校外研修会(八月)
    - 第二回委員会 三月二十九日(水)
    - 生徒指導委員会
      - 職員合同校外指導(一回)
      - 職員合同交通指導(二回)
    - 環境整備委員会
      - マリーゴールドなどの植栽(年二回)
    - 総務委員会
      - 九月十三日(火)
    - 国際交流委員会
      - フェアトレードカフェ実施(文化祭)
    - 文化委員会
      - 文化祭での催し物
- 3 研修会・大会等
  - ① 知多地区高P連協議会
    - 五月六日(金) 半田市

### 平成28年度 P T A 常任役員および委員会

| 役職名 | 氏名      | 委員会    |
|-----|---------|--------|
| 会長  | 和藤 健    | 全委員会総括 |
| 副会長 | 近藤 さとみ  | 委員会総括  |
| 副会長 | 奥 涼子    | 委員会総括  |
| 書記  | 吉田 玉青   | 進路指導   |
| 書記  | 今給黎 佳代子 | 文化     |
| 会計  | 宮本 治美   | 国際交流   |
| 会計  | 伊藤 佳子   | 総務     |
| 監査  | 西脇 正美   | 生徒指導   |
| 監査  | 篠田 由美子  | 環境整備   |
| 顧問  | 水野 信明   | 全委員会総括 |

- ② P T A 指導研修会  
五月二十七日(金)
- ③ 愛知県産業労働センター  
東海地区高P連静岡大会  
六月十七日(金)
- ④ 静岡市民文化会館  
全国高P連千葉大会  
八月二十五日(木) 二十六日(金)
- ⑤ 幕張メッセ  
知多地区高P連研究集会  
十月十九日(水)
- 4 武豊町民会館ゆめたろうプラザ  
P T A 会報『冬青』発行(三回)  
第百号 七月十三日(水)  
第百一号 十二月十六日(金)  
第百二号 二月二十八日(火)

### 平成28年度 P T A 支部役員および委員会

| 大府支部 | 氏名     | 委員会      |
|------|--------|----------|
| 支部長  | 菅野 佳代  | 文化委員長    |
| 副支部長 | 大嶋 美里  | 国際交流副委員長 |
| 支部委員 | 大嶋 泰子  | 国際交流委員   |
| 支部委員 | 大嶋 康枝  | 進路指導委員   |
| 支部委員 | 近藤 孝子  | 環境整備委員   |
| 支部委員 | 小田 紀久子 | 文化委員     |
| 支部委員 | 中井 由美子 | 総務委員     |

| 知多支部 | 氏名    | 委員会      |
|------|-------|----------|
| 支部長  | 長坂 祐子 | 生徒指導委員   |
| 副支部長 | 田中文 栄 | 生徒指導副委員長 |
| 支部委員 | 十亀 理恵 | 進路指導委員   |
| 支部委員 | 藤澤 広美 | 文化委員     |
| 支部委員 | 駒田 千草 | 環境整備委員   |
| 支部委員 | 稲熊 弥恵 | 進路指導委員   |
| 支部委員 | 外山 京子 | 生徒指導委員   |

| 大府西支部 | 氏名     | 委員会    |
|-------|--------|--------|
| 支部長   | 石野 はる美 | 総務委員長  |
| 副支部長  | 鈴木 尚美  | 文化副委員長 |
| 支部委員  | 西野 久美  | 進路指導委員 |
| 支部委員  | 立和名 直美 | 国際交流委員 |
| 支部委員  | 高岸 美紀子 | 文化委員   |

| 名南支部 | 氏名    | 委員会     |
|------|-------|---------|
| 支部長  | 原 敬子  | 国際交流委員長 |
| 副支部長 | 沼田 丈二 | 国際交流委員  |
| 支部委員 | 鬼頭 友紀 | 環境整備委員  |

| 大府北支部 | 氏名    | 委員会     |
|-------|-------|---------|
| 支部長   | 深谷 千春 | 生徒指導委員長 |
| 副支部長  | 本田 裕実 | 総務委員    |
| 支部委員  | 岡田 弘恵 | 国際交流委員  |
| 支部委員  | 高木 千絵 | 環境整備委員  |
| 支部委員  | 若松 敦子 | 生徒指導委員  |
| 支部委員  | 新美 聖美 | 生徒指導委員  |
| 支部委員  | 加藤 典子 | 文化委員    |

| 名東支部 | 氏名     | 委員会      |
|------|--------|----------|
| 支部長  | 下郷 綾子  | 環境整備委員長  |
| 副支部長 | 服部 直美  | 進路指導副委員長 |
| 支部委員 | 堀江 みち子 | 文化委員     |
| 支部委員 | 加藤 洋美  | 生徒指導委員   |
| 支部委員 | 佐藤 みなみ | 環境整備委員   |
| 支部委員 | 武田 加奈絵 | 生徒指導委員   |

| 大府南支部 | 氏名    | 委員会     |
|-------|-------|---------|
| 支部長   | 森 重子  | 進路指導委員長 |
| 副支部長  | 伴 千春  | 総務副委員長  |
| 支部委員  | 福田 千里 | 文化委員    |
| 支部委員  | 高木 綾子 | 国際交流委員  |
| 支部委員  | 高須 洋子 | 総務委員    |

| 三河支部 | 氏名      | 委員会      |
|------|---------|----------|
| 支部長  | 陶山 恭子   | 国際交流委員   |
| 副支部長 | 佐治 加津子  | 環境整備副委員長 |
| 支部委員 | 大浦 千恵   | 総務委員     |
| 支部委員 | 大無田 まゆみ | 環境整備委員   |
| 支部委員 | 金沢 敦子   | 文化委員     |
| 支部委員 | 古田 幸子   | 国際交流委員   |
| 支部委員 | 南谷 友香   | 進路指導委員   |

# 姉妹校提携三十周年記念式典を終えて

五月五日、オーストラリアのエルウッド・カレッジ短期訪問団が来日した。桜の盛りは過ぎたが、新緑が芽吹き、エルウッド校の校長を始めとする二十三名の訪問団を温かく迎えているようであった。

今回の訪問では、エルウッド・カレッジと本校の姉妹校提携三十周年が最大の行事であった。五月六日、深谷勝彦県議会議員、岡村秀人大府市長を始めとする多数の来賓を迎え、式典は厳粛に執り行われた。式辞の中で、本校の高井俊直校長は「お互いの理解が深まるように過ごして下さい」と述べた。これに答えて、エルウッド校のロンダ校長は「この友好関係が、今後さらに深まることを確信している」と語った。また、この式典中に両校の生徒があいさつに立ち、本校生徒会長の木村美優さんが英語で、エルウッド・カレッジ生徒代表のサリー・デビスさん、ケイトリン・

デインさんが日本語で、それぞれお互いの国の言語でメッセージを送りあった。式典の最後には記念品の交換が行われた。大府東高校からはプレゼンターに、は昨年エルウッド・カレッジに短期留学してい

**① エルウッド短期派遣**  
 姉妹校であるオーストラリアのエルウッドカレッジに、生徒16名程度と引率教員を2週間程度の派遣と受け入れを隔年で行っている。本年度はエルウッドカレッジから大府東に受け入れをする年である。

**日程**  
 4月22日(金) ホストファミリー保護者向け説明会  
 5月5日(木) セントレア着 各ホストファミリー宅へ  
 5月6日(金) 歓迎式典、学校見学、授業参加  
 5月7日(土) エルウッド生とホスト生徒、及び引率教員で日帰り旅行  
 5月9日(月) 授業参加、記念式典交流イベント  
 5月10日(火) フェアウェルパーティー  
 5月11日(水) 朝大府東集合、バスでJR名古屋駅へ

**② エルウッド長期交換留学生**  
 例年、エルウッド校と交換留学を実施しています。本校からは、7月初旬から8月中旬の6週間、エルウッド校に留学に行きます。また、5月から6月はエルウッド校から本校に留学に来ます。本年度、11月頃から募集開始予定です。

**日程**  
 5月20日(金) エルウッドからの交換留学生来校  
 6月16日(木) エルウッドからの交換留学生帰国  
 7月2日(土) エルウッドカレッジへの交換留学生出発 (予定)  
 8月13日(土) 交換留学生帰国 (予定)  
 12月7日(水) ~15日(水) 28年度交換留学生募集

た八名が務めた。本校からは有松絞りの壁掛けを、エルウッド校からは木製のオブジェ、絵本を贈り、さらなる交流を誓い合った。

一九八五年に始まった両校の姉妹校提携は、三十年という期間をかけ、隔年の短期訪問団や長期留学生の派遣、受け入れを通して、さまざまな交流を積み重ねてきた。これまで交流プログラムによりオーストラリアと日本を行き来した生徒は四五五名を数える。この貴重な交流が、二十三年続いてきた大府市とポートフィッツリップの姉妹都市提携、また、姉妹校提携二十年を迎えた石ヶ瀬小学校とセント・ギルダ小学校の発展にも微力ながら貢献していることは、大府東高校にとっても大きな喜びである。これからも、地域社会の人々との協力を大切にして、さらなる国際交流の発展に努めていきたい。

## 平成28年度 転入・転出者紹介

**【転入】**

|         |              |          |
|---------|--------------|----------|
| 教諭      | 岩橋 一郎 (保体)   | 東浦高等学校   |
|         | 竹内 正人 (英語)   | 刈谷高等学校   |
|         | 平良 希美 (地歴公民) | 松平高等学校   |
|         | 新美 大輔 (数学)   | 大府高等学校   |
|         | 藤村 亮二 (保体)   | 名古屋南高等学校 |
|         | 飯島 麻未 (英語)   | 津島北高等学校  |
|         | 森本 苑良 (理科)   | 新任       |
| 再任用教諭   | 安井 孝誌 (数学)   | 常滑高等学校   |
|         | 加藤 雅敏 (国語)   | 阿久比高等学校  |
|         | 加藤 稔明 (数学)   | 継続       |
|         | 倉田 正之 (英語)   | 継続       |
|         | 蒔田 真 (国語)    | 継続       |
|         | 齊藤久美子 (英語)   | 大府東高等学校  |
|         | 宮西 慎一 (理科)   | 大府東高等学校  |
| 期限付教諭   | 稲垣あすか (家庭)   | 継続       |
| 臨時的教諭   | 杉浦 未妃 (保体)   | 継続       |
| 期限付講師   | 近藤 真央 (地歴公民) | 継続       |
| 期限付講師   | 阿知和 歩 (理科)   | 継続       |
| 臨時的講師   | 右田 真也 (英語)   | 継続       |
| 期限付実習助手 | 岩本 佳奈        | 豊明高等学校   |
| 主事      | 深谷なつき        | 新任       |

|                |            |            |
|----------------|------------|------------|
| 再任用主事          | 吉森富佐子      | 刈谷工業高等学校   |
| 期付用務員          | 戸田 真治      | 継続         |
| 用務嘱託員          | 三城 賀子      | 継続         |
| <b>【非常勤講師】</b> |            |            |
| 継続             | 森 英輔 (数学)  | 山本ひろみ (数学) |
|                | 榊原正浩 (地歴)  | 岩越正文 (理科)  |
|                | 成田信行 (英語)  | 福岡紀杏 (英語)  |
|                | 林 由加利 (音楽) | 中條直人 (美術)  |
| 新規             | 樹神基之 (国語)  | 西田豊治 (理科)  |
|                | 野田裕二期 (保体) |            |

**【転出】**

|         |              |           |
|---------|--------------|-----------|
| 教諭      | 高坂 幸蔵 (国語)   | 退職        |
|         | 中島 正明 (保体)   | 東浦高等学校    |
|         | 雨宮 豊明 (数学)   | 天白高等学校    |
|         | 木下 美雪 (理科)   | 東郷高等学校    |
|         | 原田 豪 (保体)    | 保健体育スポーツ課 |
|         | 水野 晴仁 (地歴公民) | 東海商業高等学校  |
|         | 福田 理美 (国語)   | 春日井高等学校   |
| 再任用教諭   | 戸田 善一 (英語)   | 横須賀高等学校   |
| 再任用実習助手 | 水野さつき        | 退職        |
| 主事      | 浅見 悟史        | 建設部 用地課   |
| 事務嘱託員   | 榊原 孝典        | 愛知県企業庁    |

# 全国に第二の故郷を持つとう

進路指導部

愛知県の高校生は、地元の大学を選ぶ割合が全国一高いです。地元大学への進学率は愛知では70.6%。女子に限れば77.0%で、五人中四人弱が地元を選ぶ計算です。大学別の入試の過去問が載る「赤本」の売れ行きも、名古屋大や名古屋市立大、南山大などが売れ筋ベスト10に入り、県外勢は立命館大（京都市）ぐらいです。

地元志向が強い理由の一つは、愛知には難関国立大から私立大まで大学数が四九と多く、選択の幅が広いことが大きいでしょう。ですが、最大のヒントは就職も含めた人生設計にあるのかも知れません。

せん。

就職情報会社マイナビがまとめた東海地方の大学生就職企業人気ランキングでは、トップ10にトヨタ自動車やJR東海、中部電力、カゴメなど愛知県内に本社がある大企業が六社入りました。「安定志向が強く、転勤を好まない。文系理系を問わず地元の大企業に人気が集まる」とは就職担当者の弁です。

首都圏や関西よりも住環境がよく、通勤ラッシュも厳しくない。それでいて、最先端の技術を持つ企業が本拠を構える。愛知県というのは、これほどまでに自己完結した土地柄なのだ、と言えるでしょう。

ですが、一度しかない人生をコップの中だけで過ごすことはそれほど幸せなんでしょうか？他府県の若者は、優秀であればあるほど県外へ出ます。地元で手頃なレベルの大学がなかったり、就職口がないからです。そうすることで、外の世界でもまれ、視野を広げていきます。その人生がどれほど豊かであるかを計るものさしは、やはり経験の幅だと思われる。それはどこで何を見て、どれだけ多様な人々と関わってきたか、です。

愛知県で過ごすことの全てを否定する訳ではありません。かく言う私も就職に限っては、地元に戻ってきました。しか

し、青春期を親元から離れ、一人で生活した経験は、人生の大きな財産となっています。

現在は飽食の時代と言われます。何もかもが満たされた時代と言えるでしょう。だからこそ、次代を担う若者に与えるべきは、いま以上に整えられた環境ではなく、欠乏ののだと考えます。あれがない、これがない、金がない、ということから人間は工夫をするのです。そう言った経験を若いうちにこそ積んで欲しい。そのために愛知県を離れ、第二の故郷を持つてはいいかがでしょう。就職して暮らすことになる土地と、学生である立場で暮らす土地では、時間の使い方が全く違います。感受性が強く、人生で最も多感な時期を、安定志向でまもってしまふのはもったいないと言わざるを得ません。

最後に、地元愛を歓迎しつつも、過度な安定志向に警鐘を鳴らした人を別に紹介します。名古屋大学の浜口前総長は入学式で、新入生に一人暮らしや海外留学を勧めました。地元出身者ばかりの均質な集団ではぬるま湯の中で自己改革が遅れかねない、と考えたからです。前総長はこう呼びかけます。

「さあ、大学に入ったら、重い錨を揚げよう。安全な港から船をこぎ出そう」  
コップの中の小さな魚でなく、大海で悠々と泳ぐ大魚を目指して下さい。

## 平成二十八年度

### 前期生徒会役員紹介

前期は夏期球技大会や大東祭などの大きな行事があります。新しい企画や内容を考えて、運営側として全力で取り組み、盛り上げていきたいと思ひます。

また、今年度から初めて生徒会執行部を経験するメンバーが多いです。前期の活動は大変なので、全員で協力し合い、頑張っていきますのでよろしくお願ひします。

- 副会長 二の一 伊藤 大貴
- 会計 二の二 水野かきつ
- 会長 二の四 木村 美優
- 書記 二の二 坂野 菜保
- 書記 二の一 樋口 愛梨



| 都道府県 | 地元進学率 | 地元大学進学者数 |
|------|-------|----------|
| 愛知県  | 70.6% | 26,162   |
| 北海道  | 68.4% | 13,818   |
| 東京都  | 64.6% | 48,550   |
| 福岡県  | 63.5% | 14,317   |
| 宮城県  | 56.9% | 5,800    |
| 大阪府  | 54.8% | 24,392   |
| 沖縄県  | 53.8% | 3,315    |
| 広島県  | 53.1% | 7,720    |
| 京都府  | 49.8% | 7,382    |
| 熊本県  | 45.5% | 3,391    |

旺文社 教育情報センター調べ

# ◆楽しかったね 遠足・修学旅行◆

## 遠足へ行って

一年一組 原 七星

高校で初めての遠足はカレーライス作りと聞き、最初は正直三重県へ行つてまでカレーライスを作るのか、と思つていました。しかし、遠足の計画を立てたり、友達と遠足の事を話していくうちに、日に日に遠足が楽しみになっていきました。

当日、三重県民の森散策は段差が高い手作りの階段があったり、虫がいたり様々な所で自然を感じる事ができました。グリーンランドあさけに到着すると皆、それぞれの仕事に取りかかりました。

私は野菜をカットする係だったので、なるべく火が通りやすく、溶けない大きさに切ることを心がけました。なかなか火がつかなかったり、ついでもすぐに消え



てしまつたり、いろいろ大変でしたが班の皆と協力して、最終的にはとてもおいしいカレーライスを作ることができました。自分達で時間をかけて作ったので、より一層おいしく感じました。

私は今回の遠足で多くの事を学びました。初めは雲一つなかった空が、帰りに雲が出てきていたりといった天気の変化や、水の大切さ、集団行動の重要性、そして、仲間との協力です。この遠足で絆が深まったので、これからの行事に活かしていきたいと思えます。

## 校外学習を通して

一年六組 秋本 咲紀

高校に入學して約二ヶ月が経ち、学校生活も慣れてきた頃ですが、まだ話した

こともないクラスメイトがいたり、男女の間に少し壁があったりとクラス全体ではまだまだとまっていませんでした。



そんな中、三重県まで行き、みんながおいしいカレーを作るといふ一つの目標のもと行つた校外学習では、一人ひとりが決められた役割を一生懸命こなしました。ハブニングも起こつてしまいましたが、クラスメイトの今まで知らなかった一面を知ることができました。

また、カレーを作っているうちに、自然と男女の間にあつた壁もなくなり、飯ごうはいつ火から下ろせばいいのか、カレーのルーはいつ入れるのかなどみんなで見ながら考え、最後には無事おいしいカレーライスを作ることができ、笑顔で食べることができました。

後片づけでも一人ひとりが仕事を見つけ早く片付けることができました。

私はこの校外学習を通して、クラスの仲をより深めることができ、一人ひとりが集団行動を意識し、またその大切さを感じることができたと思えます。

## 三日間の修学旅行

二年一組 廣瀬 真子

一日目に原爆ドーム、平和記念資料館を訪れました。事前に資料などで見たものの実物を見て、言葉が出ませんでした。語り部さんの講話からも、今までに聞いたこともないような原爆の話、体験などを知ることができて、今の私たちにはすごく貴重な時間だったなと思えました。そして、今まで以上に原爆の恐ろしさを痛感しました。

三日目には、香川県の「中野うどん学校」で、うどん作りの体験をしました。最初は力仕事で大変なんだろうなと思つていました。しかしうどん作りが始まると、ノリノリな曲が流れて踊りながらうどんを踏んだり、タンバリンが配られてリズムに合わせて鳴らしたりで、やっついているほうも見ているほうもすごく楽しむことができました。うどん作りがこんなに楽しくできたことに驚きで、もう一度訪れたい！と、思える場所でした。

三日間で経験したことや見たもの、聞いたことは大人になっても忘れられないようなものばかりです。この素敵な三日間を過ごすことができて、本当に多くの人への感謝でいっぱい修学旅行でした。



### 階段の数

二年五組 山下 拓海

修学旅行では、広島県・愛媛県・香川県に行きました。宮島に行くまでに船に乗り、ライオンにエサをあげたり、うどんを作ったり、様々な体験をさせていただきました。その中でも一番印象に残っていることは、金比羅宮参拜のために七八五段もある階段を上ったことです。上る前は、余裕だと思っていました。階段は想像以上に長く、気温も高く大変でした。途中、いかにもゴールと思わせるような建物があり、それを見て「結構楽に着けたね。」と言いました。しかし、そこに着いてもまだ階段が見え、とてもがっかりしました。さらに友達には、「まだ半分も行っていないよ。」と言われ、疲れが一層増しました。でも、友達と話をしながら、なんとか頂上に着くことができました。下りは、ゆっくりソフトクリームを食べながら帰りました。

自分は、修学旅行の少し前に家族で広島旅行に行っていたので、修学旅行を楽しめるか不安がありました。しかし、友達と行く修学旅行は、家族旅行とはま



違った楽しみや発見がありました。また、いろいろな地域の方と話すこともでき、充実した三日間を送ることができました。



### 遠足で感じたこと

三年三組 栗田 さち

六月十日、私たち三年生は、遠足でナガシマスパーランドへ行きました。三年生になって初めての行事ということもあり、当日の朝からとても楽しみで、何のアトラクションに乗ろうかと考えながら学校へ向かいました。

現地へ着いて、クラスで写真を撮ってからひたすらアトラクションに乗り続けました。友達と園内を走っては乗り、走っては乗りを繰り返したので、お昼休

憩の頃にはみんなぐったりとしていました。なので、午後からはしっかりと休憩をして、体力を回復させてから園内を回ったので、集合時間まで思う存分楽しむことができました。初めてこんなに乗ったなというくらい、たくさんアトラクションに乗りました。帰りはへとへとで、この日の夜はすぐに寝ました。

大好きな友達と楽しい一日を過ごすことができ、とても楽しかったです。園内でもいろんな人が声をかけてくれて、この三年間でたくさんの人と仲良くなれたんだなと改めて感じることでできる遠足でした。これからの球技大会や大東祭などの行事もみんな楽しんで、充実した一年にしていきたいです。

### 初めてのメンバーで

三年六組 高橋 友美

遠足で誰と行動してもいいと言われたら、みなさんは誰と行動しますか？大半の人が好きな子同士や仲良しグループで行動すると思います。しかし、私たちはそうではありませんでした。私たちは七人で行動しましたが、あまりしゃべったことのない子も何人かいました。バスで移動しているときから、どう接したらいいのか、何をしゃべればいいのかいろいろ考えて緊張していたけど、そんな心配はいりませんでした。ナガシマスパーランドに着いたら、気さくに声をかけてくれたり、「楽しもうね！」と言いつつたり、乗り物に乗る前からウキウキワクワクでした。あまり話したことのない子

の隣で乗るのは抵抗がありましたが、「ドキドキするね！」「もう少しで頂点だ！」などと自然に会話がはずみ、いつの間にか前から仲良しだったように話せていました。遠足に行つてただ楽しむだけでなく、多くのことを学び、体験しました。それは、「仲良くないから話せない」「あまり話したことがない子と一緒に行動なんて無理」と思うから行動に移せないだけであるということです。「仲良くなりたから話しかけてみよう」「今日はたくさん話しよう」と考え、自分の意識を変えるだけで何十倍も楽しさが増すことを学ぶことのできた遠足になりました。



## 平成28年度 部活動試合結果 (愛知県高等学校総合体育大会)

### ☆県大会出場部活動

#### 陸上競技

- <支部予選> 男子 400mリレー 浜口・西郷・大田・酒井 第1位、100m 酒井 第1位  
 200m 酒井 第2位、走幅跳 大田 第2位、3000m障害 二村 第2位、三段跳 大田 第3位  
 5000mW 岩切 第3位、110mH 森 第5位、5000m 二村 第6位、3000m障害 磯田 第6位  
 女子 400mH 上 第2位、円盤投 磯谷 第2位、三段跳 磯谷 第3位
- <県大会> 男子 100m 酒井 第6位 (東海大会出場権獲得)

#### 柔道

- <支部予選> 男子団体 予選リーグ 2勝2敗1分 半田工業、5勝 東浦、  
 決勝トーナメント 4勝1分 武豊、1勝4敗 半田東 第3位  
 個人 山内 優勝、遠藤 第2位  
 女子団体 3敗 半田農業、2敗1分 半田東 第3位
- <県大会> 男子団体 3-2 碧南、3-2 熱田、0-5 同朋 ベスト16  
 個人 山内 ベスト16  
 女子団体 2-1 安城南、0-3 同朋

#### バスケットボール (女子)

- <支部予選> 1回戦 79-43 武豊、2回戦 83-39 横須賀  
 決勝リーグ 74-47 常滑、68-53 東海南、77-81 大府 第2位

#### ソフトテニス (女子)

- <支部予選> 団体 予選リーグ 2-1 大府、2-1 半田農業、3-0 半田東  
 決勝リーグ 3-0 横須賀、1-2 東海商業、1-2 半田、1-2 常滑  
 個人 岡崎・吉崎組 ベスト8

#### ソフトテニス (男子) 個人 深谷・大田組 ベスト8

#### 卓球

- <支部予選> 男子団体 3-0 日本福祉大附属、0-3 東海商業  
 女子団体 3-1 武豊、1-3 半田、1-3 半田農業、1-3 横須賀  
 ダブルス 末松・小島組 第3位  
 シングルス 末松 第9位

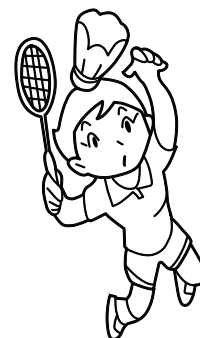
#### 弓道 男子団体 40射20中、3位決定戦 敗退

女子団体 40射15中

- <県大会> 男子団体 20射12中、20射8中 合計40射20中、一次予選 敗退  
 個人 大無田 8射5中 一次予選 敗退

#### バドミントン (男子)

- <支部予選> 団体 1回戦 3-0 半田農業、2回戦 3-1 常滑、3回戦 3-2 南山、  
 準決勝 0-3 星城、3位決定戦 2-3 大府 第4位  
 ダブルス 森・中島組 6回戦進出 ベスト16  
 シングルス 中島 5回戦進出 ベスト16、峯島 5回戦進出 ベスト16
- <県大会> 団体 1回戦 2-3 桜丘  
 ダブルス 森・中島組 1回戦敗退  
 シングルス 中島 1回戦敗退、峯島 1回戦敗退



### ☆その他知多支部予選

- ハンドボール (女子) 1回戦 16-19 半田東  
 バドミントン (女子) 団体 2回戦 1-3 向陽  
 サッカー 2回戦 2-2 常滑 PK 4-5  
 バスケットボール (男子) 87-54 東海商業、45-53 半田東